別紙2 大術普及課作成 ニホンジカ影響簡易チェックシート 森林管理署 森林事務所									
1	日時:		年	月 日			備	考	
場所の情報	場所:	林小班					パついた(己載	青報があれ	
	傾斜: 該当を選択	□ 平坦~10°		□ 10~30° □] 31	0° ~	
	森林タイプ	□ 人工林 → 樹種		ロス:	at ====0 xxx			ì	カラマツ
								□ 伐採跡地・雑地 など無立木地	
	該当を選択	■ 天然林 -	→ 樹種	□ 広葉樹 □ 針広混交林 □ 針葉樹 □					
	2,700	の平均胸高直径		cm (目測で10cm刻み)					
2植物への影響	【2-1. 立: 剥皮の程度:	木(高さ2m以	儿上)又[は植栽	植栽地】				
	利及の程度: I個体でもあれば	□ 0%	□ 1~	10%	10~30	% 	30%	6以上	
	(人工林、天然林 とも記入)	新しい剝皮の		□ なし □ あり ※新しい副皮の目安 1 副皮歯所がみずみずしい 2 副皮歯所の外側の根皮が内側に巻き込んでいない					
響	枝葉摂食の 程度	(↓高さ2m未満の植栽地の場合のみこちらも記入)							
	(人工林のみ 記入)	枝葉の摂食:	薬の摂食: □ 09		%			0% 🗖	30%以上
	【2-2. 下層植生(自然に生えてきた2m未満の植物)】								
	下層植生の種類: (一番多いもの)	П ササ Г] ササ(枯	эΠ	草本 口:	木本	П	はし 🗖	なし
			10		早年 山		_	~ _	(表土流亡の発生がみられる)
	ササの高さ:		ざより下			より上			(表土流亡の発生がみられる)
		□ va] <u>-</u>					豊富(80%以上)
	ササの高さ:	□ va	なし(0~2] <u>-</u>		5り(20· 不明	~80%) ※下 推定	層値生がして選択	豊富(80%以上) 《衰退している理由を
	ササの高さ: 下層植生量: 上記原因につ	□ ひき□ ほとんと	ま 口	0%)	】 ひざ 】 ある程度あ 不足 □ □	らり(20 不明 よシカネ	~80%) ※下推定 で で で で い で い こ い こ い こ い こ い こ い こ い こ	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	豊富(80%以上)
3 2	ササの高さ: 下層植生量: 上記原因について選択 不嗜好性植物	□ ひる □ ほとんど □ シカ食*	ま 口	0%) □	ひざ ひざ ある程度あれて足 口 ※代表的なケーグサ、	り(20- 不明 なシカネクサギ	~80%) ※下推定 で で で で い で い こ い こ い こ い こ い こ い こ い こ	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	豊富(80%以上) (衰退している理由を はも、マツカゼソウ、タ
その	ササの高さ: 下層植生量: 上記原因について選択 不嗜好性植物による単相化	□ ひさ □ ほとんど □ シカ食: □ している 種名:	ま 口	光量で	】 ひざ 】ある程度あ 不足 □ ※代表的な ケニグサ、 れば記載し	らり(20- 不明 よシカギ クサギ て下る	~80%) ※推達 で で に シカ	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	豊富(80%以上) (衰退している理由を はも、マツカゼソウ、タ
	ササの高さ: 下層権生量: 上記原因について選択 不嗜好性増施による単相化 シカ養:	□ ひさ □ ほとんど □ シカ食: □ している 種名: □ なし	常なし(0~2 書 口 口 し	が 光量 だいない あり	】 ひざ 】ある程度あ 不足 □ ※代表的な ケニグサ、 れば記載し 判別	らり(20- 不明 よシカギ クサギ て下る	~80%) ※下定 作 を	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	豊富(80%以上) (衰退している理由を はも、マツカゼソウ、タ
その	ササの高さ: 下層植生量: 上記原因について選択 不嗜好性増物による単相化 シカ賞: シカ道:	□ ひさ □ ひまかま □ している 種名: □ なし □ なし	ま 口 日 日 日 日	光量 ² ていなし あり あり	】 ひざ ある程度 あ 不足 □ ※代表的な、	らり(20- 不明 よシカギ クサギ て下る	~ 80%) ※推 嗜ミハ 「シヵ糞の	■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■	豊富(80%以上) (衰退している理由を はも、マツカゼソウ、タ

◆チェックシートによる調査の目的

ニホンジカによる森林への被害は深刻ですが、その被害状況を把握することは、 森林は広大であることから非常に困難です。

これまで関東局では、ニホンジカによる 被害状況の把握を施業を行う人工林を対 象に実施してきましたが、被害状況は人 工林・天然林を問わず把握する必要があ ります。

このため、二ホンジカによる被害について、国有林内の被害状況を人工林・天然林を問わず、網羅的かつ継続的に簡便な方法により把握するため、本チェックシートを作成し被害状況の把握に努めています。

◆調査の方法

- ・森林管理署等の森林官等が現場へ出張し各種調査等で入林した際に、剥皮や下層植生等の食痕を 発見した場合、目視できる半径10m程度の範囲の状況を調査し、現地で本シートに記入します。
- 記入したシートは森林管理署で回収し、森林管理局にてデータの集計を行います。
- 植生の変遷を確認するため、被害のない箇所についても調査を行います。



シカの食痕 (樹皮を食べるため樹皮が残らない) ※森林総合研究所岡輝樹先生資料より



シ力の歯形痕 (下あごの歯で樹皮を削り取る。クマと違い小刻み) ※森林総合研究所岡輝樹先生資料より

◆チェックシートによる調査のメリット

- 専門的な知識がなくても誰でも調査が可能です。
- ・現場において5分程度で記入できるので、調査に労力があまりかかりません。
- •請負によるモニタリング調査では、調査プロットの数が限られてしまいますが、チェックシートによる調査は、職員実行で調査を行うため、かなり多くのプロットの調査ができます。
- ・共通した項目について、広域での被害状況を把握できます。
- ・周囲の都県でも実施されれば、連携した被害状況の把握や対策が可能となります。

シカの糞



シカ以外の糞

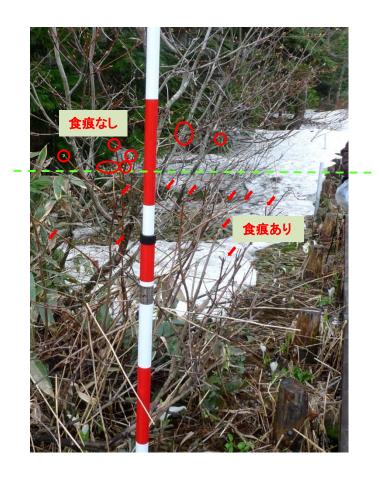






◆チェックシートでの調査により得られる成果

- 広範囲でニホンジカの被害発生状況が把握できます。
- 被害発生状況は、人工林だけでなく、天然生林の自然植生についても把握できます。
- ニホンジカの捕獲が、植生への影響を解消しているのかを検証できます。
- ・同一情報を広範囲に集めることで、データの共有化が容易となります。
- 新たな被害の発生場所が全体的に判り、最新のニホンジカの動向が把握できます。



ブラウジングライン(通称ディアライン)

(シカ生息の判断材料となります)



◆データの活用

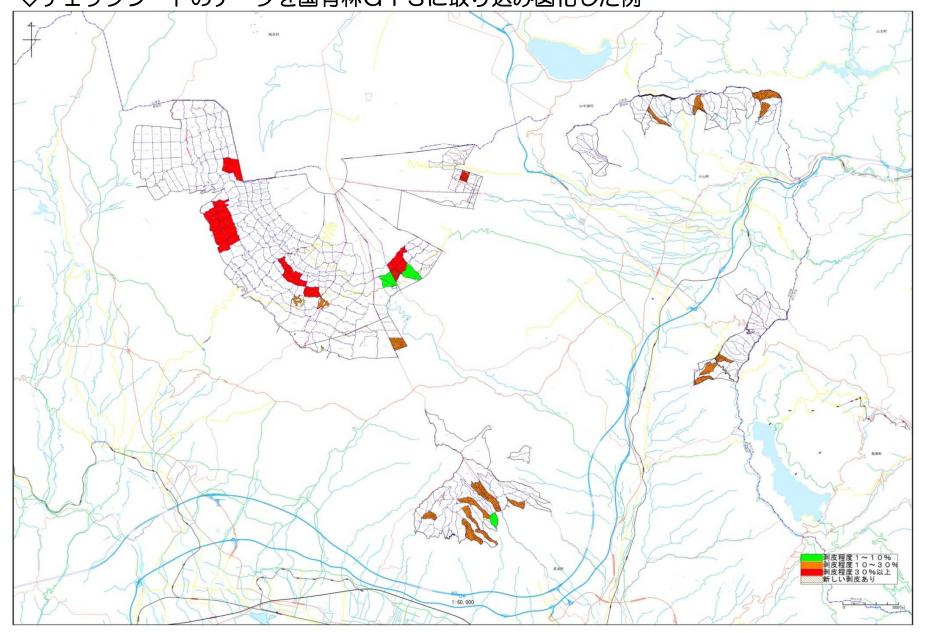
- ・データの集計は技術普及課で行い、森林総合研究所の指導・助言等をいただき、分析・解析を 進めていきます。
- ・得られた成果は、各署等へ配付するとともに、民有林等の各機関へも配付します。





ツノこすり痕(シカ・カモシカとも行う。カモシカの場合、体毛がついていることが多い)

◇チェックシートのデータを国有林GⅠSに取り込み図化した例



◇チェックシートのデータを基に調査簿データを加え図化した例

